

平成29年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

教育目標 ○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成 ○強い意志力から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成 ○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成

目指す学校像 ○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校 ○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸長させることに努める学校 ○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校 ○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校

今年度の重点目標 1. 学力の向上を目指し、学習意欲を高めるとともに進路意識の高揚を図る 2. 物事に主体的に取り組み解決していく力や規範意識、自治意識の向上を図る

達成度	A:十分満足できる B:概ね満足できる
	C:満足できない D:努力を要する
	※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

◇重点目標 1. 学力の向上を目指し、学習意欲を高めるとともに進路意識の高揚を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務 (1)クラス増に対応した良好な教育環境づくりを推進するとともに、計画的・合理的に教育活動を実施する。	・時間割作成及び各行事を滞りなく行えた。OA機器等を適切に管理し、更新も若干行えた。	B	・引き続き教育機器・備品等の更新を計画的に進める。 ・全学年7クラス化に伴い、3講義室の確保や組み授業の見直し等が必要である。
	学習 (1)日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践支援。 (2)魅力的・効果的な授業の研究・実践。	・各学年、教科と連携し学習指導を行うことができた。また、校内公開授業や校内研修などの取り組みも行うことができた。	B	・学習サイクルの定着に向けた取り組みを充実させる必要がある。また、生徒の自主性・主体性を育てるような工夫を図る必要がある。
	図書 (1)時期に応じた図書紹介で生徒の来館意欲を高め、放課後・長期休業中の図書館開放を行う中で、図書館利用時のマナー向上を徹底させる。	・入り口付近に進路関連コーナーを設けたが、図書が古く、新規購入に手間取ったこともあり、生徒への周知がうまくいかなかった。	B	・本年度購入した進路関連本の展示レイアウトを工夫し、生徒への周知も徹底して図書館の使用頻度を高める。
	進路 (1)進路行事で意識を高め、課外授業を実施し、生徒の積極的な参加を支援する。	・各行事が計画的に行われ、特にキャリア教育(夢ナビ)によって進路意識を高めることができた。生徒のアンケート結果でも好評であった。 ・課外に関して、出席率は良かったが、日程の関係もあり単発的な傾向があった。 ・就職指導に関しては外部との連携を密にし、滞りなく実施できた。民間就職率は過去最高であった。	B	・キャリア教育(夢ナビ)の継続。進路行事の精選。土曜課外・学校開放の日程の見直し。
学年	1学年 (1)自学自習の習慣の確立。基礎学力の定着と思考力の育成を図る。 (2)生徒の現状を把握するため、面談等を充実させる。	・概ね良好であったが、学習習慣の確立と基礎学力の定着については課題が残ってしまった。	B	・「朝学」の継続指導と内容の検討が必要である。また、普段から自学自習の習慣の確立を促すための指導を粘り強く行う。
	2学年 (1)生徒の学習習慣の定着を促し、進路実現に向けて継続的な指導を行う。	・面談により進路意識の向上は出来たと考える。また、放課後の教室等の利用もできた。しかし、基礎学力の定着は不十分であり、上位者の成績向上に課題を残した。	B	・入試に通用するための学力向上に努めるとともに放課後の教室や図書館の利用を促進させることにより、受験を目指す生徒を支援していきたい。
	3学年 (1)図書館における放課後の自主学習を奨励する。また、学習のアドバイスやサポートを受けやすい環境を作り、学力の向上を図る。	・図書館自主学習を19:30までと設定し、3学年で受験生をサポートしてきた。学校で学習することを大いに呼びかけてきたが、積極的に学校で学習をしていた人数は、思っていたほど多くはなかった。	B	・学習意欲向上のため、教師側が連携して、生徒と教科担当者との橋渡しをすること。また、定期テストの作問の工夫や校外模試で出題された問題の復習などを通して学習意欲を喚起させる。
教科	国語 (1)「漢字コンクール」を軸として、漢字能力の育成を図る。	・年間平均点は昨年度より若干上昇し、不合格者も昨年度に比べ延べ人数で50人ほど減少した。目標は概ね達成できた。	B	・習熟度の低い、特に漢字能力が低い生徒に対する個別の指導内容を引き続き工夫していく。
	地歴公民 (1)基礎から四大受験までを見据え、工夫したノート(授業プリント等も含む)を作成させることにより、内容の濃い復習に結びつけさせる。	・教員側の工夫は各科目で出来たが、定期テストになるとワークや課題などが中心の勉強になっている科目もある。	B	・テストの復習ノートなど模擬試験や大学受験にいかせる形を研究していく。
	数学 (1)週末課題・小テスト等を通し基礎学力を定着させるとともに、主体的に学ぶ意欲を高める。	・授業での学習内容や既習内容の復習を目的とした週末課題を課し、小テスト及び事後指導を計画的に実施できた。	B	・課題テストや業者テスト等への準備も含め、既習事項を復習するサイクルを意識した学習について指導する必要がある。
	理科 (1)基礎学力の定着と学力向上に努めるとともに、実験・観察を通して探究心を育む。	・週末課題を定期的に行うなど、基礎学力の定着を図った。 ・あまり多くないが、実験を通して生徒が意欲的に取り組む姿勢を見せた。	B	・学習サイクルの確立のために、具体的な取組みをさらに進化させる必要がある。 ・論理的な思考力を養うための具体的な取組みをさらに検討するとともに、思考力の評価方法を確立させる。
	英語 (1)「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力の強化と文法知識の習得を図る。	・各学年とも、生徒の学習への意識喚起は概ね良好であった。ただ、語彙力や基礎知識の習得という点では、まだまだである。	B	・より計画的に学習させて、語彙力と基礎学力の向上を図る。また、不合格者への指導を強化・徹底し、底上げを図る。
	科学技術 (1)科学技術の発展と利便性を学ぶなか基礎的な仕組みや理論を理解させ、実験・実習に積極的に取り組ませる。	・発行したSLTを科学技術のファイルに綴じ込ませたことにより1年生では、ほとんどの生徒が読んでくれた。	B	・スマホだけでなく身の回りにある科学技術的なものに対する興味・関心を持たせる手立て。

◇重点目標 2. 物事に主体的に取り組む解決していく力や規範意識、自治意識の向上を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	生徒	(1)服装・頭髪の乱れの防止と情報モラルの向上。 (2)交通ルール・マナーの遵守と交通事故の防止。	・各学年の協力で、服装・頭髪は良くなってきたと思われる。 ・交通委員会の交通マナーと事故防止などの活動なども始めることができた。	B	・交通マナーの苦情、交通事故の多発、情報モラルの意識の低さ、など生徒全員に意識させる指導・活動を根気よく続けていく。
	特活	(1)各行事の特徴を理解させ、自主的な活動を促し、取り組みやすい環境を作る。	・改善点はあるが、まずまずの達成状況であった。	B	・清陵祭での実行委員会をより自主的に運営できるよう促す。
	健康	(1)毎日の清掃活動の中で、美化意識への関心を高める。	・清掃監督の指示に従い、活動に取り組めた。 ・清掃時に細かな所まで取り組むよう継続的な声かけができた。	B	・より自主的に清掃活動に取り組めるような指導。 ・ゴミ箱の分別方法を可視化(色分け)したことでかなり改善したと思うが、まだ啓発していく必要がある。
	渉外	(1)学校と保護者との連携を円滑に行い、本校の教育活動に寄与する。	・PTA総会の出席率こそよくなかったものの、それ以外は概ね円滑に各PTA事業が実施できた。	B	・引き続き円滑にPTA活動を実施すること。 ・引き続き学校と保護者の連携を円滑に行っていくこと。
学年	1学年	(1)こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図る。時間厳守を徹底する。 (2)クラスの連帯感を高める。	・身だしなみについては大きな乱れもなく、十分に満足できる。その一方、時間厳守や提出物の期限の徹底には改善の余地がある。	B	・学年団として全員が共通理解を持ちながら粘り強く指導し、学年やクラスの集団意識を高揚させていきたい。
	2学年	(1)職員室入室退室時の挨拶、声かけなど共通することは、全職員で指導していくとよい。	・修学旅行を通して服装指導が徹底できた。旅行後も服装頭髪で指導を受ける生徒は減少し、学校生活も落ち着いてきている。提出物の期限についてはまだ不十分な点が見られる。	B	・挨拶や身だしなみをしっかり行うとともに最高学年としてふさわしい頭髪・服装を目指していきたい。 ・入試を意識して提出物の期限を守らせる指導を徹底していきたい。
	3学年	(1)学校生活のさまざまな場面でのマナーの向上、時間や提出物等の期限の厳守を図る。	・進路指導の過程で、挨拶や礼儀などよりよくなっていった。また、服装や頭髪で指導される生徒が減った。	B	・職員室入室退室時の挨拶、声かけなど共通することは、全職員で指導していくとよい。
教科	保健体育	(1)自己の体力を理解し、授業における体力づくりに主体的に取り組ませる。	・生徒達の中にも自覚を持って補強を実施している生徒も見られた。	B	・選択種目における体力作りを考えていきたい。
	芸術	(1)生徒が主体的に自己表現に取り組めるよう教材の研究を行い、授業の展開を工夫する。	・生徒の主体性を重視した授業が展開できたと思う。	B	・より自己表現が積極的にできるような発表の機会などをより多く設けるなどの工夫を試みると良いと思う。
	家庭	(1)体験活動を多く取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。 (2)実験実習に関して事後評価の工夫をし、生徒の意欲を引き出す。	・レポートでの振り返りにより、生徒に実生活での応用について考えさせることはできたが、全分野での実施はできなかった。	B	・当然のように実施していた調理実習においても、教師の目が届かないことがあった。実習での指導について課題が残った。
	情報	(1)ICTリテラシーを向上させるとともに情報モラルやネットマナーを身に付けさせ、規範意識を育む。	・卒業後も使用するWordやExcelの技術について基本的なことは身につけられた。モラル等意識の向上も見られた。	B	・情報モラルに関しては、PCよりも身近なスマホのアプリ等について、具体的な事例を挙げながら指導を行う必要があると感じる。

◆保護者及び生徒アンケート

重点目標1に関する「学力向上」の取組については、教職員を含め、生徒・保護者のみなさんから、今年度も良好な評価をいただいた。今後も一層の充実に努めてまいりたい。一方で、生徒の授業への取り組み姿勢や自主学習への取り組み状況は、年々、下降線をたどっている。様々な観点から現在の取組内容を分析し、より質の高い学習の実践を支援できるよう、修正・改善していく必要がある。重点目標2の「規範意識」については、この三年間の推移を見ると少しずつ高まってきているようである。昨年度下降線を示した生徒の自治意識についても回復傾向が見られる。

◆学校関係者評価

重点目標1の進路指導関係について、外部機関との連携等、様々な取組が行われており、評価できる。「学力向上」や「学習意欲を高める」に係る部分では、毎年違う生徒が対象となるので、常に指導方法の工夫・改善に努めてほしい。また生徒の自主学習支援として、地域の学習スペースの有効利用についても考えてみてはどうかとのご意見をいただいた。重点目標2については、容儀等が良好な状況であり、今後も、PDCAサイクルにおいてよく分析し、課題への対応について整理した上で実施していくと次につなげられる旨のご助言をいただいた。これらのご意見・ご助言を活かし、次年度も生徒が有意義な学校生活を送れるよう、PTA等とも連携・協力を深めながら教育活動を推進してまいりたい。

◆重点目標における総合評価

評価基準	(1)各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。 (2)点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。				
	総合評価	A	B	C	D
	評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満

重点目標1	重点目標2
重点目標に掲げて3年目の取り組みとなった。「朝の学習」や放課後の学習支援などの学力向上を目指した取組は本校のスタイルとして定着し、一定の成果を上げた。また、授業公開や講習会等の研修機会が増え、職員のスキルアップが図られつつある。今後も学校全体として、基礎学力の定着、学習意欲の底上げをしていくため、効率的かつ有効な方策を追求していきたい。 進路指導については、保護者会や面談に加え、生徒の成長段階に合わせ、学年別の「進路だより」の発行を行う等、積極的に情報提供を行ってきた。これらの取組を通し、課外の参加率が上昇するなど進路意識の向上が感じられた。更なる工夫・改善に努めていきたい。	学校評価アンケートの結果から「規範意識」・「自治意識」について、生徒指導部、各学年団が連携した取組が着実に成果を上げつつあることがうかがえる。普段の学校生活や行事、服装等で指導を受ける生徒が減少し、学校全体として落ち着きが感じられる。今後も指導・啓発を進めていきたい。 生徒の「主体的に取り組む」姿勢については、アンケート結果において、特に教職員による評価が低く示された。今後も様々な機会を捉え、生徒が有意義で充実した学校生活を送れるよう、様々な角度から支援していきたい。
B (5.00)	B (5.00)